



草の根サッカー支援 あさ風  
2015年12月ハーフタイム  
2015年12月22日発行

## 開かれた大会 清月記杯 宮城松島0-75大会

10月8・9日 第2回 清月記杯宮城松島0-75

ここ5年間さまざまな大会取材してきて思うことは、大会数が増えたこと（特に0-70 0-75）、地域を越えた大会ができてきたことです。掛川のエコパで開かれる静岡県シニアサッカーフェスティバルには、東北からの福島シニアや関西は奈良から参加の奈良蹴翁などが参加し東西が交流できる大会です。また、刈谷で行われスーパーエイジサッカー大会は、大学や高校OBのチームを中心の大会にチーム構成を変更し、大学のOBが全国から集まるようになりました。

そして、昨年より宮城松島で行われる清月記杯 0-75大会では、今回西日本OBサッカー連盟に参加を呼びかけました。前回、ハーフタイムで特集しました名古屋500 C R対宮城フェニックス S Cとの交流試合で、名古屋500 C Rの森洋造さんが見せてくださった第1回刈谷の大会のプログラムには、宮城フェニックス S Cが参加していました。大会が少ない時の方が東西の交流があったのかもしれませんが。そういう意味では、清月記杯は期待が寄せられる大会でした。

大会は、東北選抜チーム、首都圏から2チーム、埼玉シニア、西日本OBサッカー連盟連合、そして宮城フェニックス S Cで2日間で優勝を争います。優勝チームには、清月記杯と今年から金メダルが贈られます。

清月記杯とメダルを手にしたのは、昨年最下位だった東北選抜チーム（秋田・青森・山形からの選手）そ

の喜びと優勝の裏には何があったのでしょうか？



青森から参加の熊谷勝弘さんから

### 『晴天の霹靂』

東北選抜チーム 熊谷 勝弘（青森）

昨年に引続き好天に恵まれ、とりわけ後期高齢者クラスには絶好の日和になったと思っております。同時に、参加チーム中、もっとも弱体チームと揶揄されていた我が「東北選抜チーム」は予想に反し、栄えある「優勝」をさせていただき、参戦した青森は勿論のこと、秋田、山形の老人アスリート達にとりましても、今シーズンの納会では最大のビッグニュースになると

思っております。

そこで、今回の大会を通じて自分なりに1つ2つ感じた事柄について記させていただきます。

まず、我がチームは昨年の大会では最下位という無念さ。今回は、オリンピック精神に基づいて「勝つことよりも参加すること」と云うことを念頭に気楽にチャレンジした所、何と1位で予選通過。

試合後、ホテルに帰る途中で、旧知である宮城フェニックスの嵯峨さんと偶然にお逢いし、「どうでしたか?」と聞いたところ、何か意味ありげな笑いで「2試合共、完敗です。」と言ったので、「エッ!!本当ですか?」あまりの予想外にビックリ!!しました。ホテルに到着後、大会プログラムで「フェニックス」チームのメンバー表を見て、なるほど・・・嵯峨さんの笑いの意味が解けました。

それは、宮城フェニックスは昨年に引続き連覇する気になれば容易に出来る力を持っているものを、あえて今回は勝負に徹せず、相手チームに対する“お”“も”“て”“な”“し”の気持ちを優先させようとするチーム全体の度量の広さを示したのでは・・・、と推察した次第です。

次に、決勝戦当日のことです。

この日は台風の影響でゲームの行方を左右する程の強い風が吹き、老人には決してよい日とは言えません。そんな折、菅原勇監督（秋田）からはこんな“檄”と菅原マジックが飛び出しました。監督いわく、「今日の決勝戦の予想は誰れから聞いても首都圏チームが勝つ、と答えるでしょう。この予想をひっくり返すのが今日戦う皆さんで、またとない千載一遇のチャンスです。あと何年もない人生です。最後の集大成と思ってがんばりましょう。」

「今日は是非とも優勝したいと思う。私は優勝カップよりもあの『金メダル』が欲しいのです!!何故なら、誰よりも最初に胸につけたいんです。皆さんもそう思いませんか?欲しい人は手を挙げてください!!」と“檄”を飛ばし、選手を鼓舞しました。

次に“風対策”への戦術を披露。その練習を2～3回繰り返させる。そして、選手全員の持てる力と能力が最大発揮出来る環境を作り出す・・・俗に云う“菅原マジック”が炸裂しました。

その結果、戦法はずばりの中し、味方のFWが蹴り出したボールが弱く、ゴールに届くのが精一杯で「ダメかなあー」と思った所、急に神風が強く吹き、そのままゴール。“虎の子の1点”で決した次第です。これは「晴天の霹靂(へきれき)」、まさに奇跡、としか云いようが無く、自分にとりまして生涯忘れられない試合となり、“感謝”“感謝”のゲームでした。

以上、心に感じた事柄を書きました。最後に本大会を開催するに当たり、多くの関係者の皆様に、どれ程のご努力をいただいたでしょうか。参加させていただいた我がチームとして心からお礼申し上げます。



初日、どのチームより早くグラウンドに集合



2日目の試合前の作戦会議

宮城フェニックスSCのおもてなしとは?

### 『超高齢者サッカーに期待をかけて』

西巻 二郎 (宮城フェニックスSC)

本年度2回目にあたる、宮城松島O-75サッカー大会が昨年に続き開催された。地元開催地でもあるため、当宮城フェニックスサッカーチームからの出場登録者は意外に多かった。欲張り者の自分(84歳)もその一人である。到底、先発メンバーに入るとも思っていないし、何かの世話役にでもなれば、という思いでいた矢先だった。「西巻さん、今回はおもてなしの精神で他の対戦チームの方に協力してくれませんか?」の声。びっくり仰天。「はい、OK牧場」と、何の違和感もなく、即座に承諾した。

あれ!なんだべや?ところがそのチームとは「西日本連盟連合チーム」のこと。のっぴきならぬ事情あり、とのことで「4名のみ参加」だったから大変だ。せっかくの遠路来訪者の行為を無にするすることは出来な

い。付き添い担当者の羽田さんの献身的な采配と大会本部の責任において、首都圏チームと宮城チームからの応援要請を受けて新しい西日本連盟連合チームを編成・誕生させ、一件落着。

そこで、待ってました、とばかり、張り切ってサッカーマンが勢ぞろい初顔合わせをする。「お世話になります」、「お互いさまです」、「楽しくね」、「声を出してね」、・・・等々の挨拶で気持ちは誰もがさわやかであった。

いざ試合が始まるやいなや、「あっ、ごめん」、「オーライ」、「あんた下がって」、「シュート(打て)」とか、気合のかかった声が頻繁に飛ぶ中、それぞれのペースで動き回っている姿は、混成チームとは思えない戦いぶりであった。自分も負けずに普段よりずいぶんと動き回った(ような気がした)。

昔の『蹴球』時代をこよなく愛し続け、今なおこの道で活躍されている彼らの動きは、0-75とは言え、決して劣ってはいない。一進一退の攻防が続く大活劇そのものであった。2日間の大会生活にも馴れ、気心が知れた最後の試合は特にまとまりのあるゲームだった。全員が満足した笑顔でベンチに入ってきた姿は、年齢や見栄などの思いも見せず、お互いに健闘をたたえ合いながら握手を交わし、偶然の出会いに「格別の重さ」を感じ得た光景は実に美しく、気持ちよかった。試合の結果は以前からは気にしていなかっただけに、最下位でなく終わったのも幸いだったのかもしれない。ともあれ、4名の来訪者に対する「ささやかな『おもてなし』」ができたこと、安堵の胸をなで下ろすことができた、と思っている。協力応援要請を快く引き受けてくれた方々、仮称・新日本連盟連合混成チーム万歳!! ご苦労さまでした。

やがて訪れる時が来るであろう「5歳きざみの0-80」超高齢者同志の大会にもまた同じように混成チームで、若者に気兼ねせず、「生涯現役」でサッカーを楽しむことのできる明るい道が早く実現されるよう期待している。

新日本連盟連合混成チーム? 前列中央が西巻さん



前年度優勝の宮城フェニックスS C監督は

## 『主力欠き二連覇ならず』

宮城フェニックスサッカークラブ  
監督 佐藤 栄 治 (77歳)

第2回大会は東北選抜の優勝で幕を閉じた。昨年の4チームから6チームに増え、総当たり戦から予選リーグ・順位決定戦に移行した。試合数は変わらず、初日予選リーグ2試合・2日目順位決定戦1試合と丁度良いスケジュールで疲れを見せる人もなく、閉会式は和やかに健闘をたたえ、再会を約し、別れを惜しみながら帰路につかれた。

さて、昨年の覇者我が宮城フェニックスは二連覇に夢を馳せ大会へ臨んだ訳であるが、主力不在に見舞われ、勝点0・得点1・失点6という惨めな結果で最下位。遠来の友に対する「おもてなし」の「負け惜しみ」にもならず。歯ごたえのある戦いの末の負けならば相手への「おもてなし」にもなろう。

西日本OBサッカー連盟の大会参加は早くから伝えられていた。それがいろいろな事情で「5名で行きます」。早々に伊藤孝夫先生(85歳)・西巻四郎先生(84歳)・新山武志会長(78歳)の3名が西日本OB連盟の助っ人に手を挙げ、慰留するわけにも行かず、「フェニックスの壁」無しで試合に臨む。結果はご覧の通り。最後尾からいつもの叱咤・指示の声無し。

最終戦は宮城フェニックスVS西日本連盟(半分以上フェニックス)の5・6位決定戦。フェニックスのプレーの不甲斐なさに、「フェニックスなにやってんだ!」と西巻先生の罵声?

来年に向け体制を立て直さないと。来年は0-80を併設した大会企画浮上。来年は0-80に頼る事も出来ず、早く独り立ちして安心させないと。



宮城フェニックスS Cチーム

## 首都圏A・Bチーム



首都圏チームの監督の一人赤坂さんにこの写真を後日練習会場にお届けすると、「こういう写真は来年はやめようよ。」（えっ！？と内心）「いや、この紙（表彰状）でなくてあの金メダルの写真がいいよ。来年は優勝杯と金メダルの写真を撮ろうよ」でした。

優勝杯（清月記杯）と金メダルは（株）清月記杯さんの提供によるものです。大会のプログラムも今年はカラーですてきなデザインです。スポンサーがついたということは大きいですね。



## 『お詫びと感謝、そして次へ』

西日本連盟連合 柴田 正康  
（前・西日本OBサッカー連盟事務局長）

### 『お詫び』

昨年11月、西日本OBサッカー連盟創立40周年記念第1回サミット(O-79)全域大会の折、中締め挨拶で「宮城フェニックスサッカークラブ」伊藤さんから、清月記杯へ参加のお誘いがあった。今年3回目を迎えた全域O-75大会も軌道に乗り、連盟地域大会でもO-75カテゴリーの試合が組まれる様になっている状況から、参加を快諾した。ところが、4月任期満了で事務局長交代後、引継の意思疎通に齟齬があり、連盟内部の参加者募集が停滞し、当初2チーム参加の目論見が大きく後退、チームの態を成さない僅か4名の参加となった。

この間、新山会長・亀田事務局長始め宮城P F S Cのみならず、首都圏連合にも大会レギュレーションの度々の変更を強いる事と成り、多大なご迷惑をお掛けしました。謹んでお詫び申し上げます。

### 『感謝』

不安を抱えての松島入りでしたが、快晴と素晴らしいピッチ、宮城P H S Cと首都圏連合からの強力助っ人、そして何より宮城P H S Cの「お・も・て・な・し」で、楽しく充実した2日間を過ごすことが出来ました。最初の試合こそお互いのプレースタイルが判らず、コンビネーションに難がありましたが、2日目最終戦では顔と名前とプレーが一致し、単独チーム？と錯覚するほど息の合ったプレーが出来ました。中でも伊藤(85才)西巻(84才)最年長コンビには吃驚。終盤、相手が疲れていたとは言え、LBの伊藤さんがLWを追い越してオーバーラップ、見事なクロスがゴール前へ、脱帽！宮城P H S C長寿プレーヤーの元気さには後日談があります。10/22.23開催された第2回サミット(O-80)全域大会(J-Green堺)では、長躯、宮城から西巻(84)羽入(83)関口(80)の宮城P H S Cトリオが東海連合の助っ人で参加。驚異的な運動量で東海連合にパワーを注入、昨年0:6で完膚なきまでに叩きのめされた関東連合に初日スコアレスドローの健闘で、大会が大いに盛り上がりました。

### 『展望』

3年前まで影も形も無かったO-75カテゴリーの試合が、今年は私が知る限り13大会で実施され、内12大会に出場しました。来年は清月記杯の楽しさを仲間に伝え、西日本連盟連合チームで参加し、O-75の東西交流をモットモット大きな流れにしたい。

清月記杯はO-80も視野に入れてみえる由、恐らく単独チームでのO-80参加は夢物語、むしろ見知らぬ人々と連合チームを組み、交流の輪が広がる事はサッカーを続けていればこそ。長寿サッカーが一層盛んになるよう力を尽くし、O-80を目指して進んでゆきたい。



埼玉シニアのみなさん

最後に宮城フェニックス S C 会長の新山さんは

## 2015年清月記杯 宮城松島0-75サッカー大会 を終えて

宮城フェニックスサッカークラブ  
会長 新山 武志

この大会にご参加頂きました皆様、大会にご賛助頂きました皆様、運営にご協力頂きました全ての皆様、誠に有難うございました。厚く御礼を申し上げます。

台風23号の影響を心配しておりましたが風の影響を少しは受けましたが、大会が円滑に運営出来たことに安堵しております。

昨年この大会を開催致しましたところ、大変好評を頂き、又昨年も申し上げましたが自分自身の選手寿命の延長に大変効果が高いことを確信し、継続して実施することに致しました。

今回は西日本OB連盟からも5名のオブザーバー参加があり、6チームによる大会となりました。

その中で、東北選抜チームの優勝誠に御目出度うございます。

0-75大会が埼玉スーパーシニア、東日本ロイヤルエイジサッカー大会など各地でも開催が企画される様になり、今後5歳刻みの大会が広く定着することを強く願っております。

この大会でも、いずれ0-75に加え0-80カテゴリーの実施を検討して参ります。

今回ご参加の皆様が、生涯現役を目指して元気を保ってこの大会に参加を続けられ、これからのサッカー人生をより実りあるものにして頂く機会となることを念願しております。

今後共、この大会の開催にご支援ご協力を賜ります様宜しくお願い申し上げます。

又、今回の懇親会に中学入学時小生と一緒にサッカーを始めた同級生、中大OBで元日本鋼管天皇杯優勝監督の故千田進氏の政子夫人が列席されましたことは、この大会の歴史を彩る記憶すべき一つの大きな出来事として大変嬉しいことでした。

尚、大会自体は円滑に終了したものの、埼玉チームが帰路、東北本線仙台駅の3駅手前で、強風のため列車の長時間停車に遭い、バス乗換え等に時間を要し仙台駅到着が大幅に遅れる誠に御気の毒な事態が発生しました。

遅ればせながらお見舞い申し上げます。

## 西日本OBサッカー連盟 第3回スーパーロイヤル (0-75) 全域サッカー大会



今年で3年目になる堺 J-Greenで開催された0-75の大会は、11月12・13日に参加チーム6チームで2日間にわたり行われました。金パンツの0-80の方も加わりにぎやかな大会になりました。

宮城松島の大会が「開かれた大会」と言うならば、こちらはお仲間同士の「なごやか大会」というのでしょうか。試合前の審判団の挨拶も両チームに笑いを誘うようでなごやかです。でも、試合は迫力のある0-75とは思えない激しい試合もありました。スポーツジムに通う高齢者が増加しているという新聞記事がありましたが、体力の向上が著しいのでしょうか。

今回の堺の0-75大会で「いいな」と思ったのは、懇親会です。主賓はなく連盟関係者が中央に座られましたが、ほかのテーブル席は各チームから2名ずつくらいのメンバーで構成されていました。初めはなんとなく落ち着かなかったようですが、食事が始まるとみなさんと料理を分け合ったりで（バイキング形式でした）違うチームの方との話も弾んでいたようです。西日本OBサッカー連盟に加盟されているメンバーのみなさんでも、ほかの地域の様子はほとんどわからないようです。



メールによる連絡ができにくくなる世代であることも事実ですが、携帯電話はご使用されているようですので、何かうまい情報伝達の手段があるといいですね。

地域の0-75だけでは練習ができず三県くらいが集まって練習しているようです。「ちょっと練習」というようにはなかなかできないようです。

堺へ来られるのも、乗用車では人数が多いし、バスを借りるほどの人数でもないでレンタカーのバンで来られたというお話もお聞きました。0-75の方の長時間の運転は大変なようでした。これは宮城松島の0-75大会の東北の方も話しておられましたが、車で会場に来るみなさんは首都圏から電車でくる方たちより大変な様子でした。どうしてもサッカーの試合会場は最寄駅からは車でないと行けないようなところが多いですね。宮城松島では最寄駅にマイクロバスが2台でいましたので助かりましたが、0-75や0-80の大会ではその辺が「おもてなし」のポイントでは？ 長時間車を運転してきて、その後すぐに試合になるとやはり筋肉が固くなっていて、足がつったりするようです。

また エコパの静岡県シニアサッカーフェスティバルは特別かもしれませんが、帰りの足が確保されている大会は安心でいいですね。知らない土地でも、帰路の途中でもしなにかあれば、連絡できる大会本部があるということもいいことだと思います。宮城松島の大会もそうでしたが、電車が止まって困った時に、宮城フェニックスの方に連絡が取れたので助かりました。これは0-75、0-80の大会に限ったことではありませんが、特にこの世代の方たちへは配慮が必要に思います。



この大会の最年長者は、関西白線クラブの岸本保さんで92歳でした。懇親会でお話をさせていただきましたが、本当にお元気でした。試合にももちろん出場。みなさんが勇気をたくさん頂いたようです。また、熊本オールドキッカーズから参加の竹村昭一さん（82歳）も注目のプレイヤーでした。前半、後半戦とFWとして走り続ける姿に、観戦するみなさんがびっくりでした。和やかないい大会でした！

会長の松崎隆美さんと岸本保さん



動きが早く後ろ姿しか撮れなかった竹村さん（15番）



# 食育 究極のつぼ焼芋作り



## 星槎湘南大磯キャンパスの生徒さんたちと

「あさ風」18号で特集しました「大森西三郎が考えるサッカー（2）」でご紹介しました星槎国際高等学校湘南スポーツ専攻の生徒さんたちが、11月29日に地域の行事に「食育焼き芋学」で参加しました。苗から育てたさつまいもをいよいよ壺焼きにします。その焼き芋食べたさ一心で取材に伺いました。

神奈川県中郡大磯町観光協会が開催する「大磯・里山の魅力発見ウォーク」もワクワク体験ファミリーコースのアクティビティは星槎湘南大磯キャンパス内で行われ、①かさ袋ロケット製作打ち上げ ②紙漉き体験 ③親子で楽しむ簡単造形いろいろ体験 ④親子エンジョイサッカー体験 ⑤「おいしい焼き芋食育体験」が生徒たちの手で開催されていました。

朝7時ごろから準備が始まったようで、お芋は冷たい水で2回洗い、傷をきれいにとって拭いて大きさに分けていました。根気よく一つ一つ丁寧に扱っていました。



和紙を貼った壺なるものは写真のようになっていました。



壺のなかには1つ1つサツマイモがつるされていて、1時間くらいで焼きあがるそうです。いわゆる焼き芋のイメージではなく、透明感のある黄色の飴のような感じに出来上がります。まわりに糖分が出ていますので、うっかりすると火傷します。焼き芋は生徒たちがデザインした包装紙で包まれます。



この日は イベントに参加された方たちに無料で焼き芋を差し上げて、「焼き芋学」のポスター発表のある部屋で焼き芋を食べていただいていたいました。お芋を配る、部屋へ案内する、部屋で説明するなど分担して生徒たちがやっていた。





## NPO法人化に伴う変更に関して

かねてより考えておりました「あさ風サッカークラブ」のNPO法人が来年の5月にはスタートできる予定です。詳細は追ってお知らせいたしますが、みなさまに関係が深い部分をお知らせいたします。

なお、あさ風サッカークラブの資産はすべてNPO法人に引き継がれます。

### ①会員は2種類になります。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、活動を支援するために入会した個人及び団体

何かよくわからない表現ですが、NPO法人は役員と呼ばれる理事・監事と正会員による総会で構成されます。正会員は総会に出席してNPO法人の運営に参加する個人または団体を指します。（総会は、全国組織になりますので、メール等の電磁媒体による会議になると思います）

### ②会費に関して

これまでよりも安定した運営を図るために右記のように変更になります。ご理解のほどお願いいたします。

### 【年会費】

正会員	個人	3000円	団体	3000円
賛助会員	個人	1口 3000円	(1口以上)	
	団体	1口 3000円	(1口以上)	

なお、NPO法人への会費及び寄付金は

個人の場合は、年間 2,000円 を超える寄付をされた方は、確定申告で寄付金控除の申告を行っていただくことにより、所得税の寄付金控除の対象となります。（住民税の対象にもなります）

法人の場合は、寄付した日を含む事業年度の確定申告の際に、申告書に必要事項を記入し、発行する領収書を添付してお手続きをしてください。

領収書発行に関しましては、年末のお送りする書類で詳しくお知らせいたします。

② 事業は今まで通りの「あさ風」の発行、HPの運営、メールによる情報の配信に加えて、特にシニアのみなさんへの健康管理（腰痛や膝痛）のミーティングや地域での練習場確保の問題等の懇談会を企画しています。さらに、タイムリーは大会の報告（結果や試合内容）や、大会に参加の方へのインタビューなどを盛り込んでいきます。

テーマは

### 一人、一人のサッカー人生に寄り添って

です。お一人お一人を大切にきめ細やかなニュースを配信し、皆さま方に喜んでいただける事業を展開していきます。ぜひ、会員になられて新しい「あさ風」を応援してください。法人成立の記念行事などを5月に予定しております。



## 会員の募集とご寄付のお願い

♡2016年度 会員年会費（正会員・賛助会員とも）と寄付金

来年1月に会費・寄付金の郵便振替の用紙をお送りいたしますので、ご納付ください。銀行振り込みも可能です。

銀行口座は 三菱東京UFJ銀行 平塚支店 普通預金 0086773

あさ風サッカークラブ

\*連絡先：254-0035 平塚市宮の前6-2-302 あさ風サッカークラブ 古矢真知子

TEL: 0463-71-6669 FAX: 0463-71-6662

E-mail: aichiko@yuzunoki.jp

URL: <http://www.yuzunoki.jp/index.html>

発行月 2015年

12月22日

発行

あさ風サッカー  
クラブ

〒254-0035

平塚市宮の前

6-2-302

古矢真知子気付

0463-71-6669